

参加者：西澤、藤原、浮津、大竹、川邊、村瀬、丸田、隈部、見城、中川、埜村、須山、増淵、滝口、両角、小島、西尾

1 部長より

【次第より】

1 自己紹介...zoom名に氏名と校名で省略

2 運営に関して

①昨年度の反省

②運営体制/組織

会計監査

オンライン(丸田)

運営・記録(玉置)(中川)

情報(見城)(隈部)

他部員の役割分担は次回決める

③1年間の見通し

夏季合同研究までの見通しについて

3 研究に関して

①研究主題を保健部としてどう読み解き実践していくか

小グループによる検討

大竹チーム(大竹、中川、埜村、増淵、両角)

両角...授業後の自分自身の課題と授業へ向かう自分の課題

増淵...校内の4教科の取戻しが重点化されている

何とか保健をねじ込みたい

中川...学習との出会い

大竹...児童自らが出す課題と教師が与える課題

→見出す課題とは? 教師が発生させる課題? 課題⇔手立て

課題という万能差ゆえに範囲が広い→限定してあげることで児童も学びやすいのではないのか

埜村...習ったことを自分事としてとらえ、実践できるかが課題

自発的に取り組める→課題を捉え身につけている証拠

大竹...小体研「児童が取り組みたくなる課題」とは

川邊チーム(川邊、隈部、滝口、須山、西尾)

課題を見出す(2年間)→課題を解決するための手立て

教員発信? 子ども発信? 保健教育の課題

隈部...児童が健康課題を自分事としてとらえること

須山...より実践的なその子が持っているライフスタイルを見直す

→自分が健康でいたいと思わないと健康になれない

西尾...「自分の生活のここが足りない」→行動につながる

滝口...児童が健康について考える機会を引き出し、実践的にできるように引き出す

丸田チーム(見城、西澤、藤原、浮津)

今回の小体研のテーマは、保健部が今までやってきた課題解決型学習そのものである。

それぞれの単元の課題を児童に自分の事としていかにとらえさせるかが大事。

一人一人が抱く課題は同じ時もあるし、違う時もある。(例えば、心や性の問題は違う。)

健康課題=課題だけでなく、よりよく生きていくためには...という考え方も課題ではないか。

健康の捉え方も児童それぞれだが、心も体も完璧な状態が健康ではなくて、

障害や持病があっても健康である。広い意味での健康の捉え方を指導すること

大竹先生...「児童一人一人が課題を見出すための手立て」

教師が与える課題
児童が抱く課題 →小体研の示しているのはこっち
部長の考える課題を次回示す

- 4 コロナ禍に保健部が発信できること
村瀬先生より...資料の収集
正しい情報の収集が1つもない
早急に資料の収集をして保健部HPに載せていきたい
再開後に周知し、指導に役立てていきたい

- 5 その他
①第1回正副部長会の宿題について
川邊先生より...年間指導計画について
運動領域と違い、制約がない
休校あけの6月に各学年実施する(4H)
10月に5~6年の後半を実施(4H)
大竹先生より...未履修の学習を優先的に
各運動領域部会は単元の組み替えに苦勞している
②部員増員に向けて
③次回の部会について

6 常任理事の先生方より

西澤先生:「なぜ今これを学ぶのか」を意味づける
課題との捉え方を示す
部員増員

藤原先生:新部員紹介
部員増員を
よろしくお願いします

浮津先生:よろしくお願いします。
昨年度実証授業ありがとうございました。
本区も6月からスタート
児童が心と体に意識をもっている時期→実践できるチャンス

次回までの宿題:単元毎に抱える児童の課題を各自考える